

令和4年度 第2回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和4年度 第2回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和4年9月5日 午後2時00分から午後4時10分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室 東
4	出席者	遠藤委員(会長)、村上委員(副会長)、中屋委員、保尊委員、丸山委員、武井委員、相馬委員、平林委員、山地委員、岡江委員、矢花委員、宮澤委員、五十嵐委員、平林委員、池田委員、崎元委員
5	市側出席者	山田市民生活部長、山口環境課長、百瀬環境課長補佐、藤原環境政策担当主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和4年9月6日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) 節水に係る事業者ヒアリングについて
 - (2) 令和4年度 水田機能維持・地力増進推進事業について
 - (3) あづみの水結登録制度について
- 4 協議事項
 - (1) あづみ野排水路における地下水涵養効果実験について
- 5 その他
- 6 閉会

会議概要

- 1 報告事項
 - (1) 節水に係る事業者ヒアリングについて

【事務局から資料1に基づき説明】

 - ・現時点で21の事業者を訪問してヒアリングを行ったということだが、ヒアリングの対象事業者は全部でどのくらいあるのか。

⇒約60者ほどであるが、すべての事業者にヒアリングに応じていただけるわけではないので、実際訪問する事業者数は40前後となる予定である。

 - ・資料1は節水に関するヒアリング結果のまとめとなっているが、涵養についてもヒアリングを行うこととなっていたと思う。その点についてお聞きしたい。

⇒今回は中間報告という形をとっている。節水に取り組んでいる事業者、涵養に取り組んでいる事業者、節水と涵養の両方に取り組んでいる事業者があるが、節水のみに取り組んでいる事業者から訪問をしているので、涵養に取り組んでいる事業者への訪問はこれから行う予定となっている。

 - ・写真5にある「ボールタップ」について、どういう仕組みになっているのか。

⇒バケツ等に水を溜める際に、このボールタップをバケツ等の中に入れておくと、一定の

水量に達した段階で給水が自動的に止まるような仕組みになっている。
そのため、作業場を離れてしまっても、水が溢れることはなく、それが結果的に節水につながるといえる。

・ヒアリング対象事業者はどのように決めたのか。

⇒毎年5月末までに地下水採取量報告書というものを地下水を採取している事業者から提出いただいている。

提出いただく地下水採取量報告書には、節水や涵養の取組を行っている場合には○を記入する欄があり、その欄に○がある事業者をヒアリング対象事業者として選定している。

・ヒアリング対象事業者は、こういった業種になっているのか。

⇒製造業者や病院など、多種多様となっている。

・節水や涵養に取り組んでいる事業者をヒアリング対象事業者を選定しているということだが、そういった取組を行っていない事業者に節水等の取組を広げていくことが今後は大切になってくる。

・節水や涵養に取り組んでいる事業者を表彰するなど、何か後押しするような取組があるとよいと思う。

(2) 令和4年度 水田機能維持・地力増進推進事業について

【事務局から資料2に基づき説明】

・補助額が10アールあたり10,000円以内となっているが、申請者が多いことで補助額が10,000円よりも少なくなってしまうことはあるのか。

⇒令和4年度に関しては予算額を上回る申請があり、今年度は10アールあたり8,000円強の補助額となる見込みである。

・申請者には、10アールあたり10,000円以内ではなく、10,000円をしっかりと支払えるようにすることが理想だと思う。

⇒関係部局とも調整を図っていく。

・当該事業は、6月から9月の地下水量のある時期に行うものなので表流水として流れていってしまうだけではないかと考えている。検証が必要ではないか。

・どのくらい水を入れれば、どのくらい水位が上がるかといった感度をつかむことにもつながっていくので、有意義な取組だと思う。

・夏場ではなく、冬場に田に水を張ることはできないか。

⇒冬季に田に水を張る、冬水田んぼに関しては、過去に市農業再生協議会のほうで営農効果がないという検証結果が出ている。営農効果がない中で、地下水涵養だけのために水利権を使うことはできないという結論に至っている。

- わさびの栽培を行っているが、2月と8月にわさび栽培に利用する水が少なくなる。こうした背景もあり、夏場に取り組む当該事業は意味のあるものだと思っている。水の出ない畑は荒廃農地化してってしまうので、水張りの取組は進めていてもらいたい。
- 連作障害対策や抑草効果などがあることをもっとPRして、当該事業に取り組む人を増やしていくことが必要だと思う。
- 冬水田んぼの話が出たが、その中で水利権の関係で実施が困難という説明があった。実施は難しいという話で終わるのではなく、どうすれば実施できるのかを考えていてもらいたい。

(3) あづみの水結登録制度について

【事務局から資料3に基づき説明】

- この登録制度はとてもよい取組だと思うが、何をすることが少し曖昧であると感じる。
- これから安曇野市で開催予定の環境フェアなどで、この登録制度についてもっとPRしていけばよいのではないか。
- 登録のメリットについて、SNSなどで発信していくことも1つの手段だと思う。
- 同様の取組を行っているほかの自治体も参考にしたらどうか。例えば、節水や涵養などの取組に関して認証制度を設けることなどが考えられる。

2 協議事項

(1) あづみ野排水路における地下水涵養効果実験について

【事務局から資料4に基づき説明】

- 資料の3ページについて、⑤の堀金地下水位観測所の水位のグラフが8月にかなり高くなっている。令和3年の8月は降水量も多かったようだが、降水量がこれだけ大きく水位に影響を与えているということか。

⇒降水量が影響していると考えている。

3 その他

【別紙に基づき、「公益社団法人日本地下水学会 2022 年秋季講演会 松本大会」等について説明】

<終了 16:10>

以上